まちの話題をお寄せください!!
情報課 広報広聴係 ☎75-2280

令和5年
市報たく
No. 741
3

まちの話題

もくじ

02 まちの話題
04 特集1 認知症カフェ
06 特集2 移住定住
08 多久市からのお知らせ
15 あじさいへ行こう！
16 教育委員会だより
17 市長コラム
18 健康ノススメ
20 おたっしゃだより
22 まちのPickUPインフォメーション
26 Hi！POSE ほか

2月3日[Fri]

県内一周駅伝大会結団式

▲式でさらに結束力を高めた多久市チームのみなさん

第63回郡市対抗県内一周駅伝大会の結団式（主催：多久市、一般財団法人多久市体育協会）を、中央公民館で開催しました。

昨年4月から指揮をとる諸田雄一郎監督は「多久市は中高生からベテランまで、実力ある選手が揃ったチームです。チームワークと総合力で、上位入賞を目指します」と挨拶。さらに、東原庠舎中央校の光岡琴奈選手が「一人一人が最大限の力を発揮し、多久市チームに貢献できる走りをします」と、力強く選手宣誓をしました。

大会は3年ぶりに3日間にわたって実施。多久市は8位と健闘し、躍進賞に選ばれました。

～4月2日[Sun]

郷土資料館で炭鉱の企画展を開催中！

▲当時の風景を興味深く眺める来場者

佐賀県最後の炭鉱「新明治佐賀炭鉱」が閉山して50年の節目を迎え、企画展「あの頃、多久に炭鉱があった～炭鉱閉山50年～」を、多久市郷土資料館で4月2日㈰まで開催しています。

約160点の展示物のうち、8割以上が初公開。炭鉱住宅に暮らしていた人から聞き取り調査をするなどして集めた貴重な資料が展示されています。さらに、企画展開催にあたり市民のみなさんから募集した炭鉱に関する写真なども数多く寄せられ、当時のにぎわいや作業の様子などがうかがえて懐かしいと好評です。

学芸員の志佐喜栄さんは「多久の歴史に炭鉱は欠かせません。解説もいたしますので、お気軽にお声掛けください」と、笑顔で話されました。

2月11日[Sat]

子どもたちが釈菜の儀式を体験

▲中国・明時代の祭官服を身にまとった子どもたち

多久聖廟の創建から315年にわたって執り行われている釈菜を広く知ってもらおうと「多久聖廟釈菜の儀式体験」（主催：一般社団法人多久市観光協会）が開催されました。市内義務教育学校の2年生から9年生まで、10人が参加。講師は公益財団法人孔子の里のみなさんが務めました。

多久聖廟や釈菜の歴史を聞き、釈菜の道具に触れた後、祭官服をまとって儀式を体験。参加した菅井帆純さん（東部校5年）は「笏の持ち方や儀式の作法を学んだり、めったに入れない聖廟に入ったりと、貴重な体験ができました。こうした体験をとおして多久をより知ることができたので、参加してよかったです」と話しました。

今月の論語

問仁。子曰、愛人。
仁を問う子曰わく 人を愛す

出典：顔淵第十二

仁とは、人を愛することである。

今月の帰宅放送は、東原庠舎西渓校9年の瓦田彩亜耶さんです。